

令和5年度

事業計画

- 1 介護老人福祉施設「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 2 通所介護デイサービスC「緑愛園」・「青葉のまち」
- 3 短期入所生活介護ショートケア「緑愛園」・「青葉のまち」
- 4 訪問介護事業所「サポーターティ・もみじ台」
- 5 居宅介護支援ケアサポート「緑愛園」・「青葉のまち」・「サポーターティ・もみじ台」
- 6 札幌市清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）
- 7 札幌市清田区第1・第2介護予防支援事業所（札幌市委託）
- 8 札幌シニア福祉機構（自主事業）



社会福祉法人

ほくろ福祉協会

【社会福祉法人ほくろう福祉協会 理念】

「私たちは、人の幸せを望みます。」

～We Wish a person Well (3Wビジョン)～

【私たちは、常に利用者の方にベクトルを向けて、福祉のプロフェッショナルとして高い倫理観と責任感を堅持し、新たな発想で新たな「幸せ」創りに貢献します。】

～ 目 次 ～

基本方針	・・・ P2～3
【事業方針】	
【事業目標】	
I 法人経営・施設運営	・・・ P4～8
① 経営管理部	
② 事業推進部	
③ 介護人材対策	
※ 公益事業『札幌シニア福祉機構』	
II 各施設事業計画値	・・・ P9～10
III 職員配置計画	・・・ P11
IV サービス方針	・・・ P12～29
【緑愛園】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【青葉のまち】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【サポーティ・もみじ台】	
① 相談支援課	
② 生活支援課	
【地域包括支援センター（札幌市委託）】	
① 清田区第1地域包括支援センター（清田区第1介護予防支援事業所）	
② 清田区第2地域包括支援センター（清田区第2介護予防支援事業所）	

令和5年度 事業計画

基本方針

【事業方針】

令和5年度は、第六次中期経営ビジョン3ヵ年計画（令和5～7年度）の初年度となります。重点課題に設定した①緑愛園新築移転建替え②新たな施策による人材定着③C【チェック】の強化について、全職員が実行する上での視点に位置付けた、「Ⅰ自己実現と成長（やってみよう）」・「Ⅱつながりと感謝（ありがとう）」・「Ⅲ前向きと変化（あきらめない）」のもと、着実な地盤固めの1年となるよう進めていきます。

新型コロナウイルスの対応は、新たなステージ（安定化した感染状態）へ変化することが予測されます。施設入居者及び在宅サービス利用者のサービス提供及び家族参画の在り方、実習生やボランティアの積極的な受入れのほか、地域活動の再開など with コロナの中で、できる限りの事業運営を復活できるよう知恵を絞っていきます。

課題・問題が発生しても常に「私たちは、人の幸せを望みます。」の法人理念をもとに解決策を導けるよう、組織体質の変容に努めます。

【事業目標】

I 法人経営

- ① 緑愛園の建替えに伴う自己資金確保のため、資金収支差額の目標を達成します。また、移転候補地を確定し、札幌市へ長寿命化補助金を申請します。
- ② 施設入居者・在宅利用者を確保すべく、3施設・事業所の特色を明確化し、法人内事業所間の連携を図ります。
- ③ 介護人材対策委員会を継続開催し、離職分析・介護業務実態調査等に基づいた職員定着策・人材確保策を励行します。
- ④ P D C Aサイクルの「C」を強化し、事業計画をはじめ各種課題の取組に対して評価・点検をスケジュール化し検証・報告します。

II サービス

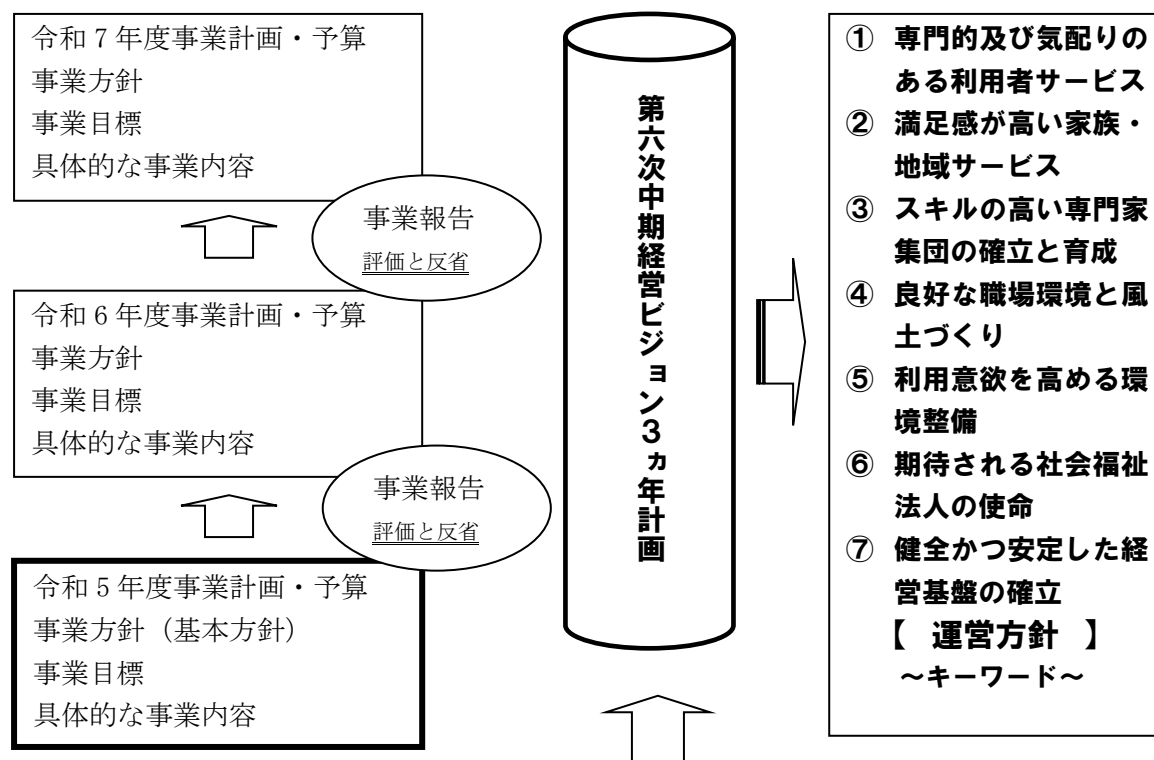
- ① 内部事業監査の内容をサービス評価制度との関連で見直すとともに、関係者（利用者・家族・地域住民・取引企業・職員間など）に対しての接遇を強化します。
- ② 介護職員の動態調査結果のもと、業務改革を実行します。
- ③ ICT等の導入効果を検証し、業務省力化及びサービス提供体制を引続き見直します。
- ④ 現場に配布している業務関連マニュアルの活用実態を調査し、大幅な見直しを図ります。
- ⑤ 入居及び利用相談における受理対応をレベルアップし、「申込率」を向上します。

Ⅲ 職員労働環境

- ① 採用困難職種を中心とした非常勤職員の賃金設定を見直すとともに、雇用名称を変更します。
- ② 職員研修制度を見直し、職場全体のモチベーションアップの観点から人材育成を強化します。また、自己啓発の推進に向けて資格取得の支援について再構します。
- ③ 人材確保・定着における諸施策の見直し(入職準備金制度・アシスト手当制度など)のほか、新しい制度(奨学金返済手当制度など)を検討します。
- ④ 新型コロナウイルスの分類変更(2類⇒5類)を想定した対応(ワクチン接種費用の助成・感染時の休暇の取扱いなど)に努めます。
- ⑤ 同一労働同一賃金に伴う諸手当及び福利厚生について、制度素案を策定し令和6年度の新制度運用を目指します。

【第六次中期経営計画と令和5年度事業計画（確認）】

【基本目標】 私たちは、利用者・家族そして地域に信頼の高い施設・事業所を目指します。



【基本理念】 ・ 【長期経営ビジョン】
「私たちは、人の幸せを望みます。」we wish a person well (3Wビジョン)

I 法人経営・施設運営

1. 経営管理部

- ① 第六次中計の初年度として、策定した「アクションプラン」の着実な実行のため総括を確実にを行います
- ② 緑愛園建替え向け、土地購入・建設資金借入等の準備を着実に進めると共に、土地購入による現預金減少後の資金繰り管理と自己資金確保のために資金収支差額の目標達成に向け対応していきます。
- ③ 介護人材対策委員会の運営を継続し、離職要因の分析や、新たな雇用形態・労働条件の検討等を行い、離職率目標の達成に向け、本部としても職員定着対策を立案・実行します。
- ④ 介護職員の採用強化策として、無資格者の採用とキャリアアップ支援、奨学金返済手当の新設検討、実習生の受入強化、アシスト手当・入職準備金制度の継続及び見直し、法人主催初任者研修の助成金支給、事業休止・廃止事業所退職者へのアプローチ等を進めます。また、採用困難職種を中心とした非常勤職員の賃金設定の見直しを図ります。
- ⑤ 介護職員処遇改善・特定処遇改善・ベースアップ等支援の各加算制度を活用した賃金の改善により職員の処遇改善を継続します。
- ⑥ 「同一労働同一賃金」の具体的施策について、専門委員会を立ち上げ議論します。
- ⑦ 見直し後の人事考課制度及び目標管理制度を運用し、課題点を解消した適正な考課制度とします。
- ⑧ 正職員の定年延長を反映した新しい再雇用制度を運用し、定年後も安心して働ける職場とします。
- ⑨ 令和3年12月より稼働した「勤怠管理システム」の評価検証と共に、有効活用を行います。
- ⑩ 職員の健康管理の強化に向け、長時間労働の点検・メンタルヘルス対策の強化策を検討します。

2. 事業推進部

- ① 介護職員の動態調査を分析し、業務効率化を目的とした介護における業務改革の推進に取り組みます。
- ② 事業所評価を取り入れ、分析・評価・改善のプロセスが連動した内部監査方法を検討します。
- ③ 介護ロボット導入マニュアルを活用し、導入前後の効果測定を明確にすることで根拠ある ICT 導入により、更なる介護職員の業務効率化を目指し施設間共有します。
- ④ 緑愛園の移転計画及び長寿命化補助金の申請を行います。また、「緑愛園建替専門委員会」で具体的建替え方針を協議し、建替え計画を立案いたします。
- ⑤ 施設入居者の待機者対策として、生活保護受給者及び身寄りなし高齢者の受入れを整備し、申し込み者の拡充を図ります。また、医療ニーズ等の対応範囲を検討し 3 施設における特色の明確化と外部 PR に取り組みます。
- ⑥ 青葉のまち及びサポーター・もみじ台における在宅サービスの一体的運用(居宅統合化・訪問介護及び通所介護)と効率化を検討します。また、稼働率安定に向け ICT 及び SNS の利活用を進めていきます。
- ⑦ With コロナにおける札幌シニア福祉機構の研修事業開催方法として、現任専門職研修の試験的オンライン研修を開催し受講者のニーズ分析を行います。
- ⑧ 研修要綱改定及びキャリアパスフレームの更新を含めた見直しを検討し、新たな職員研修体制を構築します。

3. 介護人材対策

- ① 職員定着及び中途採用者確保のため、介護の魅力を発信します。
- ② 介護人材対策委員会の運営を継続し、職員定着対策を協議します。
- ③ 中途採用者向けの育成プログラムを見直し、職員定着を図ります。

重点項目	中項目	細目
人材・ 人員確保	介護福祉士養成等の繋 がりの強化	養成校卒業生の学校訪問と講話機会の提案
		リクルートパンフレットの見直し
	介護人材対策委員会の 設置・運営	新雇用形態（非常勤）の検討
	潜在有資格者の発掘	SNS での情報発信強化
		求職者支援訓練機関の職場実習の受入再開
		潜在介護スタッフ等へ向けた職場見学会の開催
	高校卒業者の採用	中学校、高校訪問の実施
高校生インターンシップ受入		
職員定着 その他	育成体制の強化	育成プログラムの見直し
		業務マニュアルの点検、見直し
		介護職員の他施設見学推進
	退職者の離職要因分析 と対策の実行	介護人材対策委員会における対策の検討と実行
		介護職員動態調査後の業務課題の改善
		介護業務マニュアルの点検、見直し

令和5年度 人材対策計画

	中項目	細目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人材・ 人員確保	介護福祉士養成等の繋がり強化	養成校卒業生の学校訪問と講話機会の提案	提案	訪問				提案	訪問					
		リクルートパンフレットの見直し	検討	実施										
	介護人材対策委員会の設置・運営	新雇用形態（非常勤）の検討				検討	→	提案						
	潜在有資格者の発掘	SNSでの情報発信強化	実施	→										評価
		求職者支援訓練機関の職場実習の受入再開			実施	→		実施	→					
	高校卒業者の採用	中学校、高校訪問の実施	訪問	→						訪問	→			
高校生インターンシップ受入			提案	→	検討	実施		提案	検討	実施				評価
職員 の 定 着 化	育成体制の強化	育成プログラムの見直し	検討	→		実施	→			評価	実施	→		評価
		介護職員他施設見学推進		検討	提案	実施	→		実施	→				評価
	退職者の離職要因 分析と対策の実行	介護人材対策委員会における対策検討と実行	検討	→	実施	→		評価	実施	→		評価	実施	→
		介護職員動態調査後の業務課題の改善	検討	→	実施	→		評価	検討	→	実施	→	評価	
		介護業務マニュアルの点検、見直し			検討	→	実施	→	評価	実施	→	評価	実施	→

【公益事業・札幌シニア福祉機構】

	セグメント	概 略	令和5年度の計画値・取組み
研修 研究 事業	①	介護職員初任者研修 介護職員初任者を養成 ～北海道指定養成機関～	2、3月（藤女子大学） 計画15名の修了者
	②	認知症介護実践研修 （実践者研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	5、8、9月開催（年3回） 計画130名の修了者
	③	認知症介護実践研修 （実践リーダー研修） 認知症介護実践職員を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	7月開催（年1回） 計画40名の修了者
	④	認知症対応型サービス事業 管理者研修 認知症対応型サービス事業を管理・ 運営する者を養成 ～札幌市・北海道指定実施機関～	7月開催（年1回） 計画10名の修了者
	⑤	現任専門職研修 施設・事業所の専門職等を対象にした キャリアアップ～自主事業～	8月開催（年1回） 計画20名の受講者 ZOOM開催の試験運用
地域 連携 事業	①	介護技術体験会 未経験や介護資格保有者を対象に職 場見学会とガイダンスを開催	各種大学・専門学校の在学生・ 卒業生・一般受講者向けに開催

※ その他、公益事業として可能性のある事業の検討を随時行う。

※ 新型コロナウイルスの影響により中断していた「現任専門職研修」については、ニーズ把握のために試験的にZOOM開催を行います。

Ⅱ 各施設事業計画値

【緑愛園】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和4年度見込
1	介護老人福祉施設	82+3 (85)	96.8%	1日 82.3名 平均介護度 3.95	79.7名
2	短期入所生活介護	12-3 (9)	92.2%	1日 8.3名 平均介護度 3.22	8.0名
入所計		94	96.4%	1日 90.6名	87.7名
3	通所介護 (一般)	45		1日 26.2名	24.9名
	(総合)			1月 27.0名	29.2名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 216.5件 月請求 42件	260件
	支援計			計 258.5件	

【青葉のまち】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和4年度見込
1	介護老人福祉施設	70	98.9%	1日 69.2名 平均介護度 3.87	68.2名
2	短期入所生活介護	10	76.0%	1日 7.60名 平均介護度 2.50	5.2名
入所計		80	96.0%	1日 76.8名	73.4名
3	通所介護 (一般)	39		1日 24.5名	17.4名(一般) 2.6名(認知)
	〃 (総合)			1月 20.0名	18.0名
4	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 174.1件 月請求 50件	226件
	支援計			計 224.1件	

【サポーター・もみじ台】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和4年度見込
1	介護老人福祉施設	80	96.5%	1日 77.2名 平均介護度 4.00	76.3名
2	訪問介護	280		月 1,026時間	1,020時間
3	居宅介護支援 (介護) (予防・総合)			月請求 130.7件 月請求 40件	169件
	支援計			計 170.7件	

【地域包括】

	事業名	定員	稼働率	計画値	令和4年度見込
1	第1介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合 (再)	月請求 96件 月請求 145件 月請求 67件 月請求 220件 月請求 52件	567件
	予防計			月請求 580件	
2	第2介護予防事業所		要支援1 要支援2 再委託 総合 総合 (再)	月請求 157件 月請求 205件 月請求 140件 月請求 272件 月請求 76件	826件
	予防計			月請求 850件	

※令和4年度見込みについては、12月末データを基に作成。

Ⅲ 職員配置計画

職種	緑 愛 園			第1包 括	第2包 括	青葉のまち			ホーティ・もみじ台		
	施設	通所	居宅			施設	通所	居宅	施設	訪問	居宅
施設長	1					1			1		
相談支援課長	1					1					
生活支援課長	1					1			1		
センター長(課長)				1	1						
医務主任	1					1			1		
介護主任	3	1				3	1		3	1	
相談支援主任						1			1		
居宅支援主任			1					1			
包括支援主任				1	1						
看護師	3	+2				4	+2		4		
機能訓練員	1					0			0		
保健師等				1	3						
主任ケアマネ				1	+1						
社会福祉士等	2	2		4	4	1	1		1		
ケアマネ	1	5		2+1	4	1	4		1	3+1	
サ提供責任者									5		
介護職員	20+16	6+3				20+19	4+3		27+20	+15	
日常生活サポーター	+4					+5			+5		
管理栄養士	1					2			1+1		
調理員						+13					
事務職員	1+1			+1	+1	1+1			1+1		
設備員	+1					1			+1		
カフェ・喫茶						+2			+1		
守衛						+2			+2		
計	36+22	9+5	6	10+2	13+2	38+42	6+5	5	42+31	6+15	3+1
合計	51+27			23+4		49+47			51+47		

(+は臨時B・C職員・嘱託職員・パート職員) ※介護職員・日常生活サポーターは、勤務時間数により人数変更が伴います。

職種	法人本部	備考
参与	1	
事業推進部長	1	
経営管理部長	1	
介護人材対策課長	1	
スタッフ	2+1	シニア事業+事業推進+経営管理
計	6+1	

管理職	14
正職員	166
嘱託	2
臨時・パート(夜勤専門 含)	124
※新年度採用者(介護の み)	5
合計	311

IV サービス方針

● 緑愛園 ●

【全体】

新施設の建替えと移転を円滑に行うための準備として、「新たな知識と情報の収集」、「現利用者のアセスメント強化」、「介護職員に対する働き方の再分析」をポイントとして今後 10 年間を見据えた提案を行います。

また、新型コロナウイルスが 5 類へ移行するため、社会活動の活発化に向けたリスクマネジメントの強化と持続可能な感染対応について検討します。

（相談支援課）

- ① 多様な背景や生活課題を抱えた高齢者が安心して生活できる支援を実践します。
- ② 緑愛園のスケールメリット（在宅から施設まで）を活かし、複数の専門職が協働する支援展開を確立します。
- ③ 新施設建設に向け、利用者が期待感を持てるよう利用者と共に作り上げられる施設づくりをデザインします。
- ④ 新施設を建設する上で、固定概念や枠に囚われない情報収集とネットワークづくりを行います。

（生活支援課）

- ① 専門職として質の高い支援を行うため、新たな指導・育成体制の基盤を確立します。
- ② スタッフのライフステージや就業希望者の働き方に合わせた勤務時間の見直しを行います。
- ③ 職員の挑戦(やってみよう)を応援する職場風土を目指した仕組みづくりを行います。
- ④ 利用者像の変化に合わせ、アンラーニング（学習棄却）の視点を持って支援します。

● 青葉のまち ●

【全体】

コロナの緩和により 3 年間自粛・制限・停滞していたものがゆっくりではありますが全ての分野において動きだす一年となります。一方で、感染者が発生した場合にいかに迅速に対応し最小限でとどめるかという感染症と共存する「With コロナ」構築が求められます。その両方に対して主軸を置いて取り組んでいきます。また、食材費、消耗備品、光熱水費の高騰により経費の増大が著しいため、介護用品・消耗器具備品の見直しを行い、経費節減に努めます。

施設・短期部門では、コロナによって著しく影響の生じた稼働率を向上させ安定した運営ができるように待機者対策を強化していきます。また、嘱託医変更に伴い日常的な健康観察体制を構築するとともに看取りのあり方についても検討していきます。通所部門では、認知デイを廃止した新しいデイサービスをコンセプト作りから行き、自事業所の「売り」を明確にして利用率向上に繋げていきます。

（相談支援課）

- ① 待機者対策として施設の特徴と売りを明確にして選ばれる施設づくりを目指します。
- ② 青葉のまち、サポータィ・もみじ台の在宅サービスの一体的な運用が可能となるよう検討します。
- ③ コロナの規制緩和と感染対策の両方を踏まえた地域活動、家族の参画、ボランティア活動等を再開します。
- ④ 通所の利用率アップに向けてエリア分析を行い、効果的な渉外活動を実施します。

（生活支援課）

- ① 感染対策を意識した余暇活動を検討し、楽しみのある生活を再構築します。
- ② ICT 機器の導入に伴い、記録水準の向上と効率化を図ります。
- ③ 職員間の言動や振る舞い等ハラスメントに繋がる環境を改善し、働き続けたいくなる施設づくりを目指します。
- ④ 定点観察により省ける業務や非効率な方法を洗い出し、介護職員の負担軽減に繋がります。

● サポーティ・もみじ台 ●

【全体】

令和 5 年度は第六次中期経営ビジョン 3 カ年計画の初年度であり、サポーティもみじ台開設 6 年目を迎えます。事業全体としては、P D C A サイクルの「C」を強化し適正な事業運営に努めます。施設サービスでは、新型コロナウイルスの 5 類への移行に合わせた新たな生活様式の構築を図ります。また、職員間連携を強化しチームアプローチの実践に繋がります。

居宅・訪問部門では、稼働率の安定と日常的な業務チェック体制を見直し法令遵守に努めます。

（相談支援課）

- ① 安定した利用者獲得に向け、エリア分析に基づいた PR 活動への準備を開始します。
- ② 高齢者虐待及び不適切ケアの防止に向けた取り組みを継続的に行います。
- ③ 地域との連携再開に向け、感染症対策に基づいた地域交流スペース等の活用を検討します。
- ④ 法令遵守に向け、業務チェック体制を再構築します。

（生活支援課）

- ① 新しい生活様式の枠組みを構築し、利用者のサービス提供及び家族参画の在り方について検討します。
- ② 介護業務の効率化と質の向上を図る為、チェック機能を強化し業務改善を推進します。
- ③ チームアプローチの強化に向け、コミュニケーション力の向上を図ります。
- ④ I C T 機器等の活用から働きやすい介護体制を模索します。

●清田区第1・2地域包括支援センター●

札幌市高齢者支援計画の基本目標『いくつになっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり』の実現を目指し、清田区の地域包括ケア体制構築に向けた課題解決と調整を担う中核的機関として、持続可能な体制構築と対応力の強化を図ります。

併せて、当法人が、清田区の二つの包括支援センターを受託している強みを内外に発揮し、包括ケアシステムの推進が出来るよう法人内連携を強化します。

- ① 支援が必要な高齢者等が孤立することなく早期に発見され支援に繋がるよう地域全体をサポートするとともに、対応力の向上を図り包括機能の強化を図ります。
- ② 清田区地域特性の把握と課題分析を行い、関係機関等及び地域住民に対するネットワークの構築、連携の推進と強化を図り、「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務における環境整備」を推進します。
- ③ 職員定着とサービスの質の向上のため業務の点検を継続し、効率化・削減及び持続可能な体制づくりに取り組みます。
- ⑤ 包括支援センター受託法人としての強み（法人内連携）を再確認し、更なる強化に取り組みます。

V 各事業部門計画

【 緑 愛 園 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 持続可能なケアの推進	①ICT 利活用の発展と効率的サービスの提案・提供	ケアパレットによる記録の利便性を検証し、活用の定着化と新たな活用方法を検討する	施設部門 通所部門
	②新施設を見据えた介護ロボット活用提案と導入検討	最新の介護ロボット活用事例について情報を収集し、新施設へ導入する機器を明確化する	施設部門
	③現設備(ケアコールなど)の不便を洗い出し、新施設に向けた改善点・改良点の整理と導入を検討	ナースコール、離床センサー、眠りSCANなどの活用実態と改善点を再確認し機器間連携を重視した新施設導入を検討する	施設全体
2. サービスの再構と充実	①新施設を見据えたサービスコンセプトの再構	サービスコンセプトを考察するため、介護の基本を振り返る短時間研修を定期開催し、学習機会を習慣化する	施設部門 通所部門
	②With コロナ時代に突入したため、来客や来館家族等に対する接遇マナーの再確認と研鑽	With コロナ時代、「魅せる支援」として利用者への声掛け、対応マナー、接遇と実習生の手本となるスキルを向上する	全部門
	③入居者/利用者の食事量低下に伴う、食事提供方法・提供回数等、適切なサービス提供を確立	現入居者の食事量、提供時間、提供内容、自助食器などの情報を整理し、適正な食事提供方法を検証する	施設部門 通所部門
3. スキルの増強と再確認	①食事摂取困難者の増加により、食事提供方法・提供スキルの確認と技術のアップデートを実施	食に関する介護技術の確認を行い、OJT、OFF-JTを活用し不足している知識・技術を向上する	施設部門 通所部門
	②日常的アセスメントスキルの向上及び獲得した情報を記録に反映する手法の再構築(ICT 等)	導入されているICT機器から出力可能なデータを分析するスキルを高め、アセスメント、ケアプラン等の記録にも反映する	施設部門
	③地域に住むシルバー人材の就労ニーズと利用者支援を結合する仕組みの確立	施設内の業務整理を行い、専門的業務と非専門的業務の分離とシルバー人材就労のための仕組みづくりを検討する	施設部門 通所部門

[社会資源の発掘及び地域支援強化]

重点項目	計画内容		部門
1. 新たな地域への下地作り	①移転先地域の情報収集と地域課題の分析	移転先地域の特性や近隣事業所に関する情報収集と整理を行う	相談支援課
	②新たな資源の発掘とネットワークづくり	包括との住み分けを念頭に置いた移転先地域のゲートキーパーの発掘と協力体制の在り方について模索する	全部門
	③移転後の地域における新たな施設機能の検討と構築	新施設が持つ機能の明確化と具体的活用についてイメージ化する	全部門
2. Withコロナにおける地域との関り	①教育機関との連携体制の再構築	小学校への福祉教育に力点を置き、将来の担い手を確保するため、各教育機関との連携体制を再構築する	全部門
	②福祉教育を通じた多世代交流	コロナ前に行っていた小・中・高校生への福祉教育活動について再開を検討する	全部門
	③遠隔技術を駆使した地域支援の展開	特養過疎地域からの入居申込等、支援の在り方や仕組みについて検討する	全部門
3. 地域支援の新たな形	①移転に向け既存利用者の利用料支払いに関する把握と説明責任	現在の利用者に対し新たな利用料金等を含め、個人に適した新施設に関する情報提供を行う	相談支援課
	②移転を見据えた上北野町内会との協力体制の在り方についての検討	緑愛園が持つ地域の役割について精査し、上北野町内会の支援として第1地域包括支援センターの役割を模索する	相談支援課
	③他事業・他施設との連携から地域支援のあり方を構築	区内福祉施設や事業所と協働的利用者支援が可能となるような事業所間連携に関する体制を検討する	相談支援課

[サービス環境]

重点項目	計画内容		
1.新施設構想	①社会福祉事業発展を目指した教育機関とのコラボレーションの検討と確立	新施設のスペース活用として、児童、生徒、学生の発想を取り込める施設づくりの在り方について検討する	施設部門 通所部門
	②学童保育等の機能を併設した事業展開の可能性の探求と運営の検討	施設内従業員の子育て世代へアンケートを実施し、新たな働き方について検討する	全部門
	③感染症及び不測の事態に強いハードとソフトの確立	視察や研修参加を通りして、感染症及び災害を意識したハード作りの検討と提案を行う	全部門
2.介護・看護・栄養等業務の改善	①データ分析から多角的に介護業務を捉え、時代に適した業務形態への変革	利用者ニーズや生活課題の変化に対応するため、現在の介護業務や利用者支援を多角的に捉える手法について検討する	全部門
	②効率性・機能性等、職員の働きやすい環境の検討と構築	間接業務の機械化など、新施設への導入も視野に入れた効率性・機能性を重視できる業務を把握する手法を検討する	全部門
	③新たな協力医療機関との連携や協働的利用者支援のため提携先の発掘	新施設の立地や運営に合わせ、利用者の利益を追求した医療機関との連携体制を検討する	施設部門 通所部門
3.DXソリューション	①ICT/IoT/スマート家電等の導入を検討し、業務効率を向上	スマート家電などの身近な新技術による業務効率の向上について可能性を模索する	施設部門 通所部門
	②適切な室温・適切な湿度を常に保持できる機器の情報を収集し導入を検討	新施設に向けて省力化とエネルギー効率をキーワードに加湿器や冷暖房の在り方を検討する	施設部門 通所部門
	③入居者の身体レベルに合わせた介護ロボットが備わった居室の提案	介護ロボット活用事例の収集と分析から、スムーズに活用できる居室づくりの検討と提案を行う	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1.介護職員の定着強化	①職場内の安定的人間関係や心理的安全性が高められるような仕組みの検討と構築	職員向けに性格分析などのアンケート調査を実施し、スタッフ同士が互いを理解できる方法を検討する	全部門
	②スタッフ育成のためのOJT機能を再構築	中途採用者を経験・レベル別に分類し、階層別に育成する仕組み(レベル別の評価基準等)を検討する	全部門
	③介護実習生が当施設へ入職を希望し、採用・定着が可能となるよう、実習教育のあり方・協働体制の構築	実習生受け入れモデルケースを確立し、実習教育における他職種連携についての模索と採用・定着までのイメージを検討する	施設部門
2.利用者の拡大	①新施設への移転と新概念のPR	現入居者・利用者が新施設に対する期待値を高められるように情報提供手法や新施設づくりに関する雑談の場を検討する	全部門
	②居宅支援⇒在宅サービス⇒施設サービスと一貫的サービス提供の仕組みを強化	施設内事業所間連携を円滑に行い、利用者が安心してサービスを受けられる仕組みを構築する	全部門
	③低所得者や身寄りなし高齢者、介護保険サービス以外の福祉サービスが必要な利用者などの支援の検討と展開	現行制度の支援に該当しない高齢者の支援について、ニーズアセスメントから状況把握を進める	全部門

【 青葉のまち 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. Withコロナでの支援確立	①感染対策を考慮した余暇支援の実施	セミパブリックスペースを活用したグループ活動・クラブ活動の再開と感染対策に配慮した外出行事を検討及び実施する	施設部門 通所部門
	②家族面会の再開と家族参画介護の実践	状況に合わせて段階的にユニット内での面会や家族参画の介護が可能となるように検討する	施設部門
	③ICT を活用した家族向けの利用状況の発信	Google フォトやインスタグラム等を使用した生活状況の発信する	施設部門 通所部門
2. ICT活用の促進	①記録業務の効率化	ボイスファンとケアパレットを活用した記録の効率化とICTによるバイタル連動により記録の一元管理を行う	施設部門
	②移乗支援機器の検証と評価	Hug や介護リフトの運用方法を検証し、移乗支援機器導入の評価を行う	施設部門
3. 専門的ケアの実施	①最新介護技術の習得	トランス方法・おむつのあて方等の最新技術の習得に向けた研修を企画する	施設部門 通所部門
	②身体拘束廃止・虐待防止への強化	日常的な介護場面の振り返りから、福祉的倫理観や基本的な介護技術の習得する	施設部門
	③実習指導体制の強化	根拠に基づいた介護技術の実施と OJT 方法の見直しを行う	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1.地域支援活動の再構築	①地域住民向けの企画立案と実施	地域住民が関心を持つ、または必要とする新たな企画を立案する	相談支援課
	②地域の子供向け企画の立案と実施	地域に住む子供及び子育て世代に向けた新たな企画を立案する	相談支援課
2. 地域福祉活動の促進	①あおば福祉推進協議会の活動再開	町内会活動の再開に向けた協議を行い下期より一部再開する	相談支援課
	②施設における地域支援体制の再構築	職員に地域活動の意義を周知する他、活動再開に向けて施設内担当者を選定し支援体制を構築する	相談支援課
3.ボランティア	①With コロナによるボランティア活動の再構築	感染対策を意識したボランティア活動を検討し、年度内に一部の再開と次年度からの本格的活動の準備を行う	施設部門 通所部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1.経費節減	①介護用品および事務消耗備品の見直しの実施	オムツやリネン、ペーパータオル等の見直し、施設で用意する事務消耗品のルール化を行い経費削減に繋げる	全部門
	②節約効果の見える化の推進	電気使用量や備品の使用量、料金の推移等を見える化し達成感に繋げる	全部門
2.通所事業の再構築	①新デイサービスのコンセプト作り	サービス内容、支援の方向性等が職員一体となるようなコンセプトを作成する	通所部門
	②「また利用したくなる」と思えるサービスの確立	サービス内容の見直しを行い、コンセプトに基づいた事業所の「売り」を確立する	通所部門
	③重度認知症及び重介護利用者への支援の強化	認知デイで培った重度の認知症の方や困難事例対して取り組みを強化し、他事業所との差別化を図る	通所部門
3.業務評価と業務改善	①定点観察による業務改善の洗い出しと具体案の策定	省ける業務や非効率な実施方法を洗い出し、介護職員の負担軽減と効率化につなげる	施設部門
	①食事提供変更後の評価と行事や四季を感じられる食事方法の企画立案	食事提供方法変更後の評価を行い、完全調理済み食品をベースに季節感のある食事提供方法を検討・実施する	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		部門
1. 職員の定着強化	① コロナ終息後を見据えた休憩環境の整備	地域交流スペースの通常運用に向けて、各階の休憩環境や方法について検討及び整備する	全部門
	② 勤怠システムによる労働環境の可視化と具体策の協議	衛生委員会と連動し、乖離勤務実態を把握し、労働環境の見直しと超勤時間の削減に繋げる	全部門
	③ 「ずっと働きたい」「新しく働いてみたい」と思える施設作りの推進	働き続けたい内部向けの取り組みと実習生や見学者が働きたい外部向けの取り組みを検討する	全部門
	④ ハラスメント防止の推進	職員間の言動や振る舞い等ハラスメントにつながる環境の改善方法を検討する	全部門
	⑤ 職場環境改善の推進	職場環境改善アンケートを実施し、実施の可否と進捗状況を公開し、職員自身が環境改善を考えるような体制を構築する	全部門
2. 利用者の拡大	① 3施設の違いを明確にすることで「選択できる施設づくり」の推進	各施設の特徴と売りを明確にし、見える化することで選びやすい施設づくり体制を検討する	施設部門
	② リピーター率の向上を目的とした「魅力あるショートステイ」の整備	利用率向上にむけたコンセプトづくりを行い、接遇向上と生活環境の整備に繋げる	全部門
	③ 相談支援課合同プロジェクトの推進	青葉とサポーターティ・もみじ台を一体的に考え、相互の在宅サービスの強化に繋げる	全部門
	④ エリア分析に基づいたPR活動の実施	入居・利用申し込みをエリア分析し、効果的な待機者対策に繋げる	全部門

【 サポートィ・もみじ台 】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		部門
1. 認知症ケアの推進	①認知症支援の質の向上と、職員指導向上の為、認知症実践者及びリーダー研修の受講促進	職員個々のスキルアップを目的とした専門研修受講の推進に向け、年間計画を作成し派遣する	施設部門 訪問部門
	②認知症高齢者の安心した生活に向け、BPSDに対する支援方法の理解と実践	認知症高齢者に対する理解力の向上を図る為、職員が主体となる継続的な研修方法を検討し実施する	全部門
	③認知症高齢者への環境支援に向け、PEAP 指針の活用と改善	PEAP 指針の活用に向けた行動計画を作成する	施設部門
2. サービスの充実	①安全で安心出来る日常生活に向け、感染症への理解を深めた新たな生活スタイル（外出・面会など）の構築	感染症流行前の日常に近づける為、面会・外出・受診方法について議論し、ロードマップを描き実施する	施設部門
	②サービスの充実に向け標準的な介助方法の統一化と入居者視点に立った個別ケアの実践	標準的な介助方法の統一と個別ケアについて議論を行い、取り組み内容を具体化し全職員と共有する	施設部門
	③アドバンス・ケア・プランニングの継続的実践と評価	看取りケアの充実に向け、デスカンファレンス内でアドバンス・ケア・プランニングの振り返りを行い、更なる改善を図る	施設部門
3. 職員間連携の強化	①信頼される立ち振る舞いと、円滑なコミュニケーションに向け、ビジネスマナーの獲得と実践	社会人としての立ち振る舞いを身に着けるため、コミュニケーションを軸にビジネスマナーを習得する	全部門
	②職種間の相互理解を深め、チームアプローチを強化	職種理解を高める方法とチームアプローチ時の留意事項を協議し、計画的に実施する	施設部門 訪問部門
	③各種情報を効果的に活用するため、報連相の強化	報連相の実践状況の課題整理を行い、対策を検討する	施設部門

[地域との連携]

重点項目	計画内容		部門
1. 地域との連携	①感染症対策に基づいた、継続的な地域交流スペースとカフェの活用	地域交流スペース及びカフェの地域開放に向け、感染症対策を講じた運営方法の検討とロードマップを作成し展開する	全部門
	②小・中・高等学校への福祉教育支援に向けた取り組み	令和6年度の福祉教育開始に向け、企画立案を行う	全部門
	③多様する地域課題の対応に向け、地域内他法人と協働し地域支援を実践	地域連携に向け、地域内他法人と組織間レベルにおける内容の企画立案を行う	全部門
2. ボランティアの拡充	①感染症に配慮したボランティア活動の再構築	感染症対策を講じた活動方法の検討と、場所及び頻度を段階的に広げる為、スケジュールを明確化する。また、ボランティアのしおりを改訂する	施設部門
	②学生ボランティアの活用に向けた検討と実践	実習生とボランティア活動に対する意見交換を行い、学生のニーズに合わせたPRや募集方法の検討を行う	施設部門
	③やりがいと、安心感あるボランティア活動に向けた受け入れ体制の再構築	ボランティア受け入れ体制の再構築に向けた協議を行い、課題を明確にして改善策を立案する	施設部門
3. 地域の活用	①関係機関及び社会資源の可視化による、地域力の活用	関係機関及び社会資源の可視化に向け、Google マップ等の活用検討と、運用ルールを構築する。	全部門
	②医療、福祉系学校と協働による、地域ニーズに応じた検討と実践	感染症下における活動留意事項の検討と、医療系学校と活動内容を協議し、地域へ提案する	全部門

[サービス環境]

重点項目	計画内容		部門
1. 介護業務の改善	①定期的な業務改善と検証	安定的・持続的なサービス提供に向け、PDCA サイクルを回し、業務効率化を図る	施設部門
	②介護主任及びリーダー職の業務改善	介護主任及び介護リーダーの役割と業務実態から課題整理を行い、改善計画を作成する	施設部門 訪問介護
2. ICT 等の各種機器の効果的活用	①介護ソフト及び通信機器等の効果的な活用（介護ソフト、ネックスピーカー、モバイル）	介護ソフト及びネックスピーカーの更なる活用に向け協議し、各種機器の活用を促進する	施設部門 訪問部門
	②業務効率と入居者支援の充実に向け、眠りスキヤンの更なる活用	眠りスキヤンを増台し、業務効率と支援の充実に向け、新たな活用方法を検討する	施設部門
	③腰痛の負担軽減に向けた各種福祉用具の整備と効果的な活用	介護リフトを効果的、継続的に活用する為、利用者の選定基準を明確化する	施設部門
3. スキル向上	①OJT 機能強化に向けた育成力の向上	主任・リーダーの育成力を高める為、OJT の目的と実践状況を確認し、実践時の課題に応じた対応策を検討する。	施設部門
	②介護技術向上などの専門委員会活動を通じた実践力の向上	実践力を高める為、独自委員会（介護技術向上、看取り向上）で、事例検討を継続的に実施する	施設部門
	③実習生に対する指導・育成力の向上	実習指導者に対し定期的な面談による振り返りを行い、指導・育成におけるスキル向上を図る	施設部門

[施設運営の健全化]

重点項目	計画内容		事業区分
1. 介護職員の定着強化	①組織の安定と活性化に向けた「意図的な介入と関わり」の強化	職員定着に繋げる為、リーダー職以上による『意図的な介入と関わり』について議論し、職員との関りを強化する	施設部門
	②安心して働き続ける事が出来るように、法人及び施設理解の強化	『安心して働き続ける』をテーマに職員全体（非常勤含む）で意見交換を行う	全部門
	③職員のストレス緩和に向けた、柔軟性のある職員ユニット配置の実践	既存のユニット配置に捉われず、ストレス緩和に繋がる新たなユニット配置案を検討する	施設部門
	④働きやすい労働環境に向けた 5S 活動の推進	5S 活動を更に促進する為、フロア間で取り組み内容の共有と実践評価を行う	全部門
2. 利用者の拡大	①入居希望者の医療ニーズに対する受け入れ態勢の再構築	医療ニーズ者の受け入れ範囲を見直す為、近隣施設及び入居申込み（過去2年分）の実態把握を行う	施設部門
	②潜在的顧客に焦点化した出張 PR と、潜在的顧客の待機者管理方法の構築	潜在的顧客に対する PR と潜在的待機者の管理方法を協議し、実施に向けた企画を行う	施設部門
	③更なる利用者獲得に向け、在宅サービスのエリア分析に基づいた PR 活動の強化	効果的な PR 活動に向け、エリア分析のツールと運用方法を検討する	居宅部門 訪問部門

【清田区第1・第2地域包括支援センター（札幌市委託）】

[個別支援サービス]

重点項目	計画内容		事業区分
1.札幌市運営方針遂行の強化	①地区特性把握(地域アセスメント)のためのデータ蓄積と分析の標準化	地区アセスメント視点の再確認と蓄積されたデータについて、処理の標準化に取り組む	包括機能
	②根拠(i)等に基づく目標設定及び取組計画の立案と効果的、効率的な計画推進の検討と実践	担当エリアの地区特性と課題を反映した運営事業実施計画を立案し実践する	包括機能
	③2センター受託の強みを活かした協働と分担の再考による効率的・効果的運営の推進	2センターによるCore体制の強みと課題を確認し、効率的、効果的な運営を検討し試行する	包括機能
2.対応力強化	①総合相談窓口機能と対応力向上(年度ごとに強化POINT・手法を検討)	相談受理について標準化ツールの検討と対応力強化にむけ内部研修を実地する	包括機能
	②各専門職における専門性強化のための体制構築(職種・経験別)	各専門職のキャリアレベル指標と育成過程を検討する	包括機能・ 介護予防 支援
	③予防支援事業所としての役割の充実(介護保険理念に基づくケアマネジメントや法令遵守の強化、高齢者ニーズの把握等)	介護予防ケアマネジメントを通じ、自立支援にむけた介護サービス提供や利用者のニーズ及び社会資源に関する課題を抽出し、包括的継続的ケアマネジメントにおける環境整備に反映する	包括機能・ 介護予防 支援
3.地域包括ケアシステムの推進	①関係機関(区・予防C・社協・生活支援C等)との地域アセスメントにもとづく地域支援の推進強化	関係機関と協働し地域アセスメントを深化させ、ニーズに基づく地域支援を展開する	地域支援
	②地域ケア会議の効果的活用及び推進(地域ケアシステムの充実のため)	多職種連携による個別地域ケア会議等から地域課題の抽出を促進し、解決の手法や多層会議の活用を検討する	地域支援
	③区内組織(居宅・サービス事業所・民間サービス・病院・障がい者分野等)との連携強化による包括的継続的ケアマネジメントの環境整備(※)の推進	地域の多様な機関とアフターコロナにおける高齢者支援における課題解決に向けた連携を強化する	地域支援

(※介護保険外の関わりも含め、包括的・継続的ケアマネジメントを可能にする体制を作り、個々の介護支援専門員が多職種・多機関と連携をとりながら高齢者を支える活動ができる環境を整備すること)

[地域包括支援（地域との連携）]

重点項目	計画内容		事業区分
1.働きやすい環境づくり	①業務内容の合理化・ICT活用と業務量の平準化の推進	業務フローの見直し、様式や方法の変更、ICT等の活用を検討する	包括機能・介護予防支援
	②職員同士の相談体制の構築や職場の課題解決のための取り組みの検討と実施	働きやすい環境づくりについて協議し、取組を検討する	包括機能・介護予防支援
	③人材確保・コスト・平準化等に着眼した人員配置（年度ごとに強化 POINT・手法を検討）	業務量の適切な管理と必要な人員配置を随時検討し早期に人材を確保する	包括機能・介護予防支援
2.法人内連携の強化	①法人内他部門との連携強化のための相互理解の促進	法人内で包括機能や職員の専門性を共有し、法人内の強みを活かした体制を検討する	法人内連携
	②在宅サービス基盤整備のための法人部門との地域・高齢者ニーズの共有	包括業務を通して把握した地域課題・高齢者ニーズを法人内に随時発信する	包括機能・法人内連携
	③緑愛園移転に伴う地域課題の分析と支援の検討	移転後の地域課題を分析し、緑愛園移転後における地域支援の検討に参画する	包括機能・法人内連携
3.他機関連携	①教育機関との連携～実習受け入れと指導プログラムの評価	定期的な実習受け入れと指導プログラムの評価と更新する	包括機能
	②円滑な事業推進のための他分野を含む他機関連携の推進	他法人、多職種との連携の場（機会）に積極的に参画する	包括機能